

J - クレジット制度管理者 御中

実績確認概要書

平成30年2月1日

審査機関名 ロイドレジスター クオリティ アシュアランス リミテッド

1. 排出削減事業計画の概要

排出削減事業名	廃棄物処理施設におけるインバーター制御の導入及びポンプの更新によるCO2削減
承認番号	KC1320
排出削減事業者名	番の州エコサービス株式会社
排出削減共同実施事業者名	一般社団法人 低炭素投資促進機構 (その他関連事業者名：なし)
事業実施場所	番の州エコサービス株式会社 (住所：香川県坂出市番の州町7番地1)
事業の概要	押込送風機にインバーター制御装置を導入し、また、噴射水ポンプを高効率機器に更新することにより、エネルギー消費量を低減し、CO2排出量を削減する。
排出削減量の計画	【移行限界電源係数使用の場合】 【方法論005】 2012年度： 67tCO2 2013年度： 67tCO2 2014~2019年度： 65tCO2 2020年度： 43tCO2 (事業実施期間合計 567 tCO2) 【方法論025】 2012年度： 10 tCO2 2013~2019年度： 10 tCO2 2020年度： 6 tCO2 (事業実施期間合計 86 tCO2) 【全電源係数使用の場合】 【方法論005】

	2012年度：52 tCO ₂ 2013年度：70 tCO ₂ 2014年度：68tCO ₂ 2015~2019年度：65tCO ₂ 2020年度：43tCO ₂ （事業実施期間合計 558 tCO ₂ ） 【方法論025】 2012年度：8 tCO ₂ 2013年度：11 tCO ₂ 2014~2019年度：10tCO ₂ 2020年度：6tCO ₂ （事業実施期間合計 85 tCO ₂ ）
クレジット認証期間	開始日 2012年11月30日 終了予定日 2020年11月29日
排出削減方法論	方法論番号005：間欠運転制御、インバーター制御又は台数制御によるポンプ・ファン類可変能力制御機器の導入 方法論番号025：ポンプ・ファン類の更新

2. 本実績確認の対象期間

2015年4月1日 ～ 2017年11月29日（第3回目実績報告）

3. 実績確認結果

本実績報告期間における排出削減量は、承認排出削減事業計画に従ってモニタリングされた結果に基づき算定されており適正である。

排出削減量	199tCO ₂ （2015年4月1日～2017年11月29日）
-------	--

4. 実施した実績確認手続きの概要

以下の実績確認手続きにより、報告された排出削減量に重大な誤りがないことを確認している。

要件	実績確認手続き
排出削減量が承認排出削減事業計画に従って実施した結果生じていること	排出削減量が、承認排出削減事業計画に従って当該計画を実施した結果生じている事を、以下の通り確認した。 1) 開始日の確認（初回実績確認の場合） 初回実績確認ではないので該当しない。

	<p>2) 対象期間中の設備稼働の確認</p> <p>電力量計の集計データ及び事業者へのヒアリングにより、導入設備は実績報告期間において継続的に稼働していたことを確認した。□</p>
<p>排出削減量が承認排出削減方法論及び承認排出削減事業計画に従って算定されていること</p>	<p>排出削減量は、承認排出削減事業計画に従って実施され、算定されていることを確認した。</p> <p>1) モニタリング方法の確認</p> <p>電力量計の集計データ及び事業へのヒアリングにより、モニタリング方法が方法論及び当該削減計画に沿って実施されていたことを確認した。</p> <p>2) 活動量の正確性</p> <p>電力量計の集計データ及び事業へのヒアリングにより、エネルギー使用量の記録・保存は適切になされており、活動量が正確に集計されていることを確認した。</p> <p>3) 単位発熱量、排出係数等の確認</p> <p>電力量計の集計データ及び、事業者へのヒアリング並びに J-クレジット制度のモニタリング・算定規程（排出削減プロジェクト用）Ver.2.9 により、排出削減量の算定式及び使用されている排出係数等は方法論及び承認排出削減事業計画通りであることを確認した。</p> <p>4) 排出削減量算定方法及び算定結果の確認</p> <p>排出削減量の算定結果を電力量計の集計データとの突合、計算過程の確認、再計算等実施した結果、排出削減量の算定結果に大きな誤りはないことを確認した。□</p>
<p>算定結果がクレジット認証期間の終了日を超えないこと</p>	<p>今回の実績確認対象期間は 2013年4月1日から 2017年11月29日までとなっているが、J-クレジット制度への移行手続きにより、終了予定日は 2020年11月29日となっているため、当該算定結果は適切であることを確認した。□</p>

5. 承認排出削減事業計画からの重要な変更点についての評価

今回の検証において承認排出削減事業計画からの重要な変更点に該当する事象はなかった。

6. 特記事項

本実績確認期間における省エネルギー量として、

（方法論005）は、原油換算 88.2kL、熱量換算 3421.6GJ

（方法論025）は、原油換算 8.3kL、熱量換算 322.9GJ であることを確認した。

方法論025の対象設備については、故障により、対象となる2台のポンプのうち1台が2016年12月7日に更新されていた。通常、事業所では並列に設置されている2台のポンプのうち1台を交互に動かす運用をしているが、更新後どちらのポンプを稼働させたかの情報が得られなかったため、プラント停止前の2016年11月30日までを集計期間とみなし、この前提に基づき排出削減量を計算している。

以上